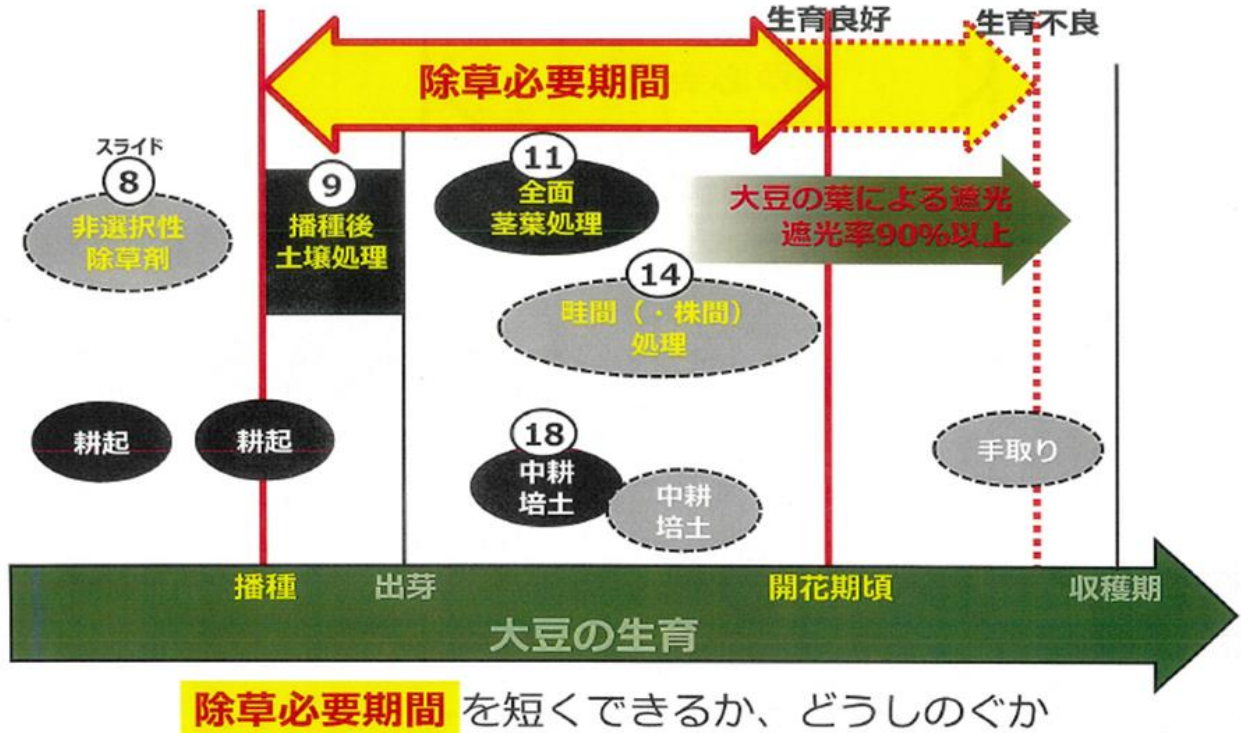


だ い ず 通 信 雑草防除特別号

雑草防除のポイントは、「雑草をほ場に入れない」「雑草の開花前に処理する」ことです。

1 大豆作における雑草防除の考え方



第1ポイント

- 〔時期〕 播種直後～3日頃
- 〔作業〕 土壤処理除草剤の散布

出芽前の雑草に効果があり、雑草の出芽を抑制します。砕土が不十分だと除草剤の処理層がうまく形成されず、薬剤の効果が劣るため、砕土は丁寧に行いましょう。

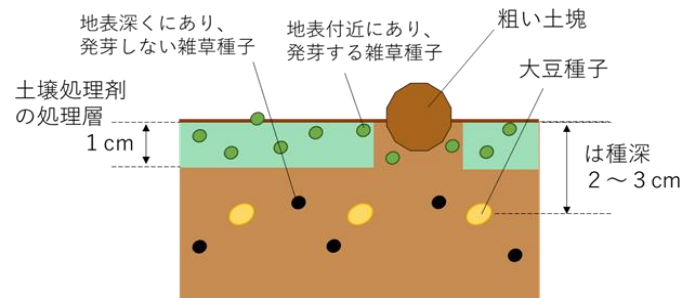


図-1 大豆の播種深と土壤処理剤の仕組み

第2ポイント

- 〔時期〕 播種後20～30日頃
- 〔作業〕 茎葉処理除草剤の散布(または中耕)

生育初期の雑草を防除します。播種後30日(大豆4～5葉期)を過ぎると大豆の茎葉が繁茂し、株元まで除草剤が届かなくなります。早めの散布を心がけましょう。

第3ポイント

- 〔時期〕 播種後30～45日頃
- 〔作業〕 中耕・培土作業

中耕・培土は可能な限り2回行いましょう。1回目は畦間除草を目的とした中耕のみ、2回目に培土を行うことで、作業の速度が向上します。

大豆作の雑草防除作業 チェックシート

1 播種～土壌処理除草剤の散布

耕起・砕土は丁寧に行っていますか？

砕土が不十分だと除草剤の処理層がうまく形成されず、効果が劣るほか、苗立ちが悪くなり、出芽・生育が揃いにくくなります。砕土は丁寧に行いましょう。

土壌処理除草剤は、播種直後に散布していますか？

土壌処理除草剤は、出芽前または出芽直後の雑草に効果があり、芽が出てしまった雑草には効果がありません。は種後3日以内を目安に、確実に散布しましょう。

乾燥の強い年は、散布する水量を増やして散布していますか？

土壌処理除草剤の処理層を形成するためには、適度な土壌水分が必要です。乾燥気味の年はブームスプレーヤーの散布水量を増やし、ほ場に水分を保たせましょう。

2 茎葉処理除草剤の散布

茎葉処理剤は、雑草発生初期に散布していますか？

茎葉処理剤は生育初期の雑草に高い効果があり、雑草茎葉に十分な量の薬液を吸収させることが重要です。

大豆5～6葉期（7月上旬頃）には大豆の茎葉が広がってくるため、株元の雑草には通常の半分しか薬液がかかりません。散布が遅れる程、防除は困難になります。

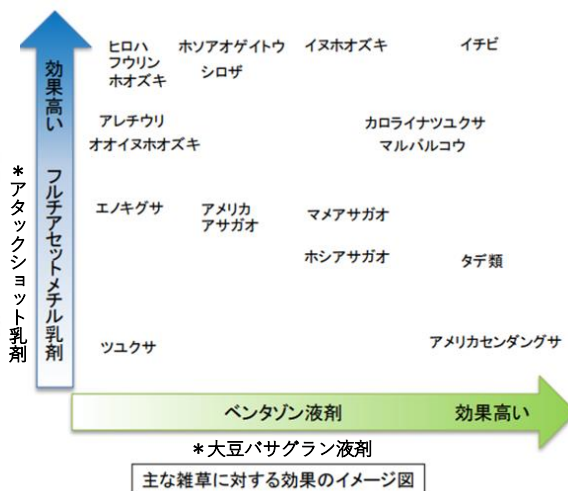
毎年同じ剤を使わず、草種に合わせて薬剤を変えていますか？

除草剤はそれぞれ得意な草種が異なります。ほ場の雑草に合わせて薬剤を選びましょう。



パワーガイザー液剤 BASF 短バサグラン液剤 アタックショット乳剤

※パワーガイザー液剤は、大豆2葉期までの使用で、ツユクサへの効果は他剤より高い剤です(枯死率3割程度)。薬害が発生しやすいため、適期散布が重要です。



3 中耕・培土

中耕・培土は2回行っていますか？

広葉雑草（ツユクサ・アカザ等）は除草剤が効きにくく、除草剤での防除が困難です。中耕培土を2回行い、確実にほ場にすき込みましょう。

作業時期の目安は、1日目が播種後35日～40日頃、2回目はその2週間後です。